

目次

1	最初の節	1
2	第2の節	3

定義一覧

1.1	最初の定義	1
2.1	2番目の定義	3

定理一覧

1.1	最初の定理	1
1.2	2番目の定理	2
2.1	3番目の定理	3

1 最初の節

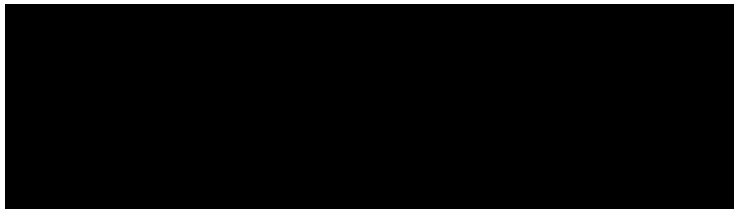
定義 1.1 (最初の定義). 平面幾何学において円周の長さを、その直径で割って得られる値は円の大きさに関わらず一定の値を取る。この値を円周率といい π と書く。

定理 1.1 (最初の定理).
直角三角形の斜辺の長さを c とし、その他の辺の長さを a, b とした時 $a^2 + b^2 = c^2$ なる関係が成立する。

証明 (最初の証明) ある命題が、事前に認められた仮定 (公理という) から、事前に認められた推論規則のみを用いて有限ステップで導くことができる時、その命題は証明可能であるといい、公理から命題を導くためのステップの有限列を証明と呼ぶ。 ■

定理 1.2 (2 番目の定理).

直角三角形の斜辺の長さを c とし、その他の辺の長さを a, b とした時 $a^2 + b^2 = c^2$ なる関係が成立する。



2 第2の節

定義 2.1 (2 番目の定義). 平面幾何学において円周の長さを、その直径で割って得られる値は円の大きさに関わらず一定の値を取る。この値を円周率といい π と書く。

定理 2.1 (3 番目の定理).

直角三角形の斜辺の長さを c とし、その他の辺の長さを a, b とした時 $a^2 + b^2 = c^2$ なる関係が成立する。